

万博×環境 未来を描こうプロジェクト

第1回 ミーティング 議事録

[日 時] 2019年9月27日(金) 18時～20時

[会 場] 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー) 41階 共用会議室⑤

[参加者] チームメンバー26名、スタッフ・関係者9名

[概 要] 2025年大阪・関西万博に向けて、多くの若者(16～29歳)から、実現して欲しい環境・まちづくり等のアイデアを集約、発信する「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」の第1回ミーティングを開催した。

これからチームで動いていくため、メンバーの自己紹介から始まり、それぞれが抱く万博のイメージの共有、2025年大阪・関西万博の開催概要の把握、未来社会のイメージと未来社会に向けたアイデア出しを行った。ミーティングは今回を含めて5回～6回開催予定。次回ミーティングの日時は、欠席者も含めた全メンバーに照会して決める。

[次 第] 1. 概要説明/自己紹介

2. 万博のイメージをシェアしよう!

3. 「2025年大阪・関西万博」について知ろう!

4. 未来の社会の姿をイメージし、それに向けたアイデアを出そう!

5. 事務連絡

1. 概要説明/自己紹介

① 概要説明

「万博×環境 未来を描こうプロジェクト」は、2025年大阪・関西万博に向けて、多くの若者から、実現して欲しい環境・まちづくり等のアイデアを集約、発信するプロジェクトです。チームメンバーは、今回のミーティングを含めて5～6回集まり、提言をまとめていきます。多くの若者(100人程度)の意見をまとめた提言書にするために、これから、その方法も含めて検討していきます。

エコ・ファースト企業や行政、大学などの有識者、NPOなどからのサポートを受けられる環境にあるので、積極的に議論をして、必要に応じて専門的な話を聞くことも可能です。

大阪府から費用面での補助はありませんが、会議室の確保や広報発信の協力などをいただくことも可能です。

このプロジェクトは、単年度のプロジェクトですが、2025年に向けて、実現に向けて動いていけるようなチームをめざして積極的に話し合いをしましょう。

メンバーは、定員を超える応募があり、申込を締め切りましたが、100人のアイデアをまとめていく中で、メンバー以外の人に集まってもらう機会もあるかもしれません。

② 自己紹介

全体でメンバーの自己紹介を実施しました。加えて、名前と顔を少しでも早く一致させて、チームとして一緒に動いていける関係性を作るために、テーブルごとに積み木自己紹介(※)を実施しました。

※積み木自己紹介は、輪になって自己紹介を行い、自分より前に自己紹介をした全ての人の自己紹介内容を覚えて、それを全て言った後に自分の自己紹介をするというもの。

2. 万博のイメージをシェアしよう!

チームの中には、万博に行ったことがある人もいれば、行ったことがない人もいます。それぞれの万博に対するイメージや知っていることを付箋に書き出して、チームメンバーの万博に対する認識がどのようなものなのかをシェアしました。ワークショップでは、以下のようなイメージが共有されました。

- ・国際的なイベント
- ・先端技術の展示がある
- ・各国の特徴が出る
- ・芸術との関わり
- ・経済効果がある
- ・パビリオン
- ・世界中から人が集まる
- ・地球について考える
- ・未来予想設計
- ・マスコットキャラクター
- ・太陽の塔／岡本太郎
- ・駅ができる
- ・宇宙が身近な存在になるなど

3. 2025年「大阪・関西万博」について知ろう！

チームメンバーがシェアした万博のイメージや知識が、「2025年大阪・関西万博」と近いところがあるのか、違っているのか、確かめる意味も含めて、大阪府エネルギー政策課から、万博の位置付け、「2025年大阪・関西万博」の誘致時の提案内容等について説明しました。

4. 未来の社会の姿をイメージし、それに向けたアイデアを出そう！

2025年大阪・関西万博では、2030年に達成期限が迫るSDGsの達成に貢献することが明示されています。2030年にはどんな社会、環境になっていけばいいかをイメージし、付箋に書き出しました。また、その社会像を実現するためには、どんなアイテム（技術など）が必要になるかのアイデアを出し合いました。ワークショップでは、以下のようなイメージやアイデアが共有されました。

《1班》

- ・ごみ箱にバスケットボールのゴールをつけるなど、小さなアイデアで環境活動を推進させる。
- ・環境問題はリターンやリスクが見えづらいので見える化する。

《2班》

- ・環境問題やSDGsについて一般の人でも周知している社会になっている。
- そのためには、研究者や学生など、知識を持っている人たちが積極的に普及させる。
- でも興味のある人となない人とは普及率が変わるかもしれないので、伝える方法を考える。そして、その伝える方法が万博なのではないか。

《3班》

- ・都市に自然を残すにはどうしたらいいかを考えたとき、自然が増えていったらお金が貰えるシステムがあったらいい。
- ・テレワークの普及により都市に人口が集中しない社会になっている。
- ・自然の管理や、農業を機械がメインでできるようになり、それらの負担が減る。

《4班》

- ・人口減少と高齢化により、まちはコンパクトシティ化している。
- ・近くのスーパーまでは自動運転自動車が走っていて、自転車やスクーターのシェアリングも普及している。
- ・でも、どこでもドアがあればコンパクトシティ化させる必要もない...

《5班》

- ・地球温暖化防止のため化石燃料は使わない社会になっている。
- ・代わりに太陽光発電などが普及している。
- ・自然エネルギーですべての電力を賄うのが難しければ、宇宙空間に太陽光発電パネルを建設する。
- ・宇宙で発電した電力は、宇宙から地上まで道を繋げて運ぶ。
- 化石燃料の問題について考える時間でもできるし、経済的にも良いのではないかと

5. 事務連絡

次回の日程調整は、初回欠席者の方も含めた全員に日程調整をさせていただき、参加できる方が多い日程で開催します。